

CASBEE京都-新築(2015年版)
(仮称)京都・下京区室町通ホテル

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境													
1 音環境													
1.1 騒音			【共用部】ロビー:50dB(A) 【住居部】客室:40dB(A)			3.0	0.40	3.0	0.40	3.3			
1.2 遮音			【住居部】客室:D=50			5.0	0.40	3.9	0.40				
1 開口部遮音性能						5.0	1.00	5.0	0.30		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	4.0	0.30		3.0	0.20	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.20		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20		3.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0	0.20				
2 温熱環境													
2.1 室温制御			【住居部】窓システムSC:0.5、U:2.7 外壁・その他U:1.033			3.0	0.50	3.4	0.50		2.5		
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57			4.0	0.43
2 外皮性能						3.0	0.25	4.0	0.43	-		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	-		-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境													
3.1 屋光利用			【共用部】屋光率:12.51%(ロビー)【住居部】屋光率:4.5%(客室・T-1)			4.2	0.30	4.2	0.30	3.2			
1 屋光率	●自然	A(全国版準用)				5.0	0.60	5.0	0.60			-	-
2 方位別開口						-	-	-	-			-	-
3 屋光利用設備	●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40	3.0	0.40	-	-					
3.2 グレア対策						2.0	0.30	3.0	0.30				
1 屋光制御	●自然	B(推奨内容)				2.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境													
4.1 発生源対策			F☆☆☆建材の採用			4.0	0.50	4.0	0.63		3.4		
1 化学汚染物質						4.0	1.00	4.0	1.00	-		-	
2 アスベスト対策			-	-	-	-	-	-					
4.2 換気						3.0	0.30	2.3	0.38				
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)				-	-	1.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-				
2 喫煙の制御						3.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能													
1 機能性													
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	2.0	0.60	3.1			
1 広さ・収納性						-	-	1.0	0.50		-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	0.50		-	-	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)				3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	3.5	0.40				
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)				-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-				
3 内装計画	●自然	D(独自基準)	【共用部】自然素材の多用(床・洗面・仕上・石)、間接照明の設置、パースによる事前検証			5.0	1.00	4.0	0.50				
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-				
3 衛生管理業務						-	-	-	-				
2 耐用性・信頼性													
2.1 耐震・免震						3.0	0.50	-	-	3.0			
1 耐震性						3.0	0.80	-	-		-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)				3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔			C以上を使用しEは不使用			3.0	0.20	-	-				

2.4 信頼性					2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区、風致地区にあり許可を得ている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.88	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.93 住宅(専有部) ー	3.0	0.50	-	-	3.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)					3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)					-	-	-	-	
4 効率的運用					2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマ、省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	軽鉄間仕切・軽鉄天井・OAフローア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率:94%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策ガイドラインチェックリスト(屋内・屋外・広告物照明)の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる